

先週の月曜日、豊臣秀吉さんや、キリスト教を捨てたと言われていたけれど、お墓から五色のビーズが出てきたという千々石ミゲルさんに関するお話しをしました。何となく覚えていたという方、いらっしやいますか。

今日は、豊臣秀吉さんの子どもの子どもも、千々石ミゲルさんの子どもとも、うわさのあった（事実ではないようです。）天草四郎さんのお話しをします。

天草四郎さん、これは、あだ名のようなもので、本当のお名前は、益田四郎時貞さんと言います。十六歳くらいの人で、今で言うなら高校生くらいの人です。手の上に鳩をとまらせて、卵を産ませたり、海の上を歩いたり、目の見えない人の目を見えるようにしたりと、まるでイエス様のような奇跡を起こした人だと言われています。

この益田四郎時貞さんと、三万人を超える人たちが、長崎県の島原という所にある原城というお城の跡に立て籠もり、今から三百八十年以上前の今日、つまり二月二十八日（旧暦）、ほぼ全員が亡くなったという日です。

私が小学生の頃は、この出来事を「島原の乱」と言っていました。今は「島原・天草一揆」と呼んでいます。六年生の持っている社会科の資料集にも、そう書いてあると思います。この島原・天草一揆、当時この地方を治めていたお殿様がひどい人で、それに抵抗

するためと、キリスト教の禁止に反対する意味もあって起こった一揆です。幕府は最初、板倉さんという人を総大将にして戦いますが、何と板倉さんは討ち死に。その後幕府は、「知恵伊豆」とあだ名があるくらい賢かった、松平さんを総大将にして原城を攻めさせます。

松平さんは原城の様子を見て、「兵糧攻め」にすることを決意。兵糧攻めというのは、お城に食べ物や水が一切入らないように、周りを取り囲む攻め方。幕府の兵隊は十二万人もいたそうです。原城は三か月間持ちこたえませんが、城内の食料が底をついたころ、幕府軍の総攻撃を受け、一人の絵師を除いて全員が死亡。それが、三百八十年以上前の今日という訳です。本当に戦争は、嫌なものです。

普通は、兵糧攻めに備えて、お城の中にお米をたくさん蓄えたり、井戸をたくさん掘ったりしています。また、塩だけをため込んだ部屋を用意したり、畳の中に「芋がら」と言う、芋の茎を乾燥した物を入れておいたりして、いざとなったら食べるようにしていたお城もあつたようです。

城内の水が足りなくなってきたことを敵に悟られないように、遠目から敵が見ているのを承知の上で、桶に入れたお米を馬の背中に流し、あたかも水で洗っているように見せかけて、水はまだ十分にあるとアピールするよ

原城のあつた島原は、湧き水が豊富な土地。原城は水には困らなかつたようです。

先週まで、四校時授業で、給食なしの下校。まるで兵糧攻めにあつたように、お腹を空かせて家に帰り着いた人がたくさんいたのではないのでしょうか。

今日から給食を再開します。給食中は当然のことながらマスクをとります。そこでしゃべってしまつと、ということが起きるか、君たちもよく分かっていると思います。給食をこれまで以上に気をつけて食べることができるとか、先生たちも心配し、話し合いました。

いわゆる「黙食」がこれまで以上に徹底できるとかは、ひとえに君たちの努力にかかっています。先生方のご注意をよく聞いて、君たちの協力をお願いします。本当はおいしい給食を楽しみながら、話もしたいでしょう。でも、残念ながら今はそういう状況ではありません。先生方も感染したり、濃厚接触者になつてしまつたりすると、授業を続けることさえできなくなつてしまいます。どうか、どうか、君たちの自覚と協力を、くれぐれもよろしくお願いします。

